

1. 日 時：2007 年 6 月 22 日(金) 12:10～13:10
2. 会 場：国際基督教大学 本部棟 206 会議室
3. テーマ：「インターネット時代の図書館と図書館員の役割」
4. 司会：帝京大学メディアライブラリーセンター館長（東地区部会長校）岡田 泰男

## 5. 議 事

### (1) はじめに

司会を務める岡田泰男帝京大学メディアライブラリーセンター館長（東地区部会長校）からテーマに関連した自己紹介あった。

つづいて、両氏から本日のテーマに絡めて自己紹介があった。

古城利明 中央大学図書館 館長（私立大学図書館協会会長校）

畠山珠美 国際基督教大学図書館 館長代行（東地区部会総会会場校）

司会より本日の進行については時間も限られるため自己紹介を省き、自由な情報交換の場としたい旨の説明があった。

### (2) 意見交換

3 氏の挨拶から次の話題が提供され、これをもとに意見交換が行われた。

(司会) 図書館をめぐる環境が急激に変化していると同時に、図書に対する評価も変わってきている。司書の役割としてインターネット情報への対応も十分でなく、一方旧来の蔵書に対する知識も相対的に低下しているのではないかと感じる。業務委託、配置転換など研修もままならない状況があり各館での対応を知りたい。

(中大) 一利用者として図書館を見てしまうが、管理職としての館長の役割として重視している点を聞きたい。

(ICU) ICU は図書館職員が専任の館長になる規定がある。したがって館長は実務を把握でき、専任の業務として対応する。ICU は学生一人当たりの年間貸出冊数が 62.2 冊と全国一になっているが、これにはリザーブ・ブック制度など教員との連携が重要で、学生には本を読まなければレポートが書けないような課題がだされている。また、1 年生必修のカリキュラムの 2 コマを使って図書館を利用した学習法、オンラインデータベースの検索法などの指導をしている。

これに対し参加者より様々な意見が出された。

(以下各発言者の要旨のみを抜粋して掲載)

(情報リテラシー支援と司書教育)

TG 大：ICU ではどのような授業の中で利用指導を行なっているのか知りたい。

1 年必修英語教育プログラムという授業の 2 コマをつかって図書館の利用、文献・情報探索の指導を行なっている。場所は図書館内のマルチメディアルームで 1 年生の 25 クラスに対して職員が担当している。

SO 大：図書館員の意識が重要だ。館長の役割として現場から声が上がるように、改善の種を蒔くことが重要だ。当館も入学時に授業の 1 コマを使ってガイダンスを行なうようになっている。また、ツアーは大学院生が当たっている。大学院生にとっても資料が再確認でき有用なようだ。

NS 大：図書館に理解ある教員の協力を得て、授業内でクラスガイダンスを実施している。2 年前から図書館主催の初級、中級のガイダンスを実施している。現在全学生の 10 人に 1 人がガイダンスを受けたことになる。

TI 大：図書館が機能していくためには、図書館利用をはじめとした情報リテラシーに関する体系的なカリキュラムを教育（授業）の中に位置づけられるかが重要だ。その意味で教員としてカリキュラム編成に関与できる館長の役割は大きい。参考例としては京都大学での情報検索法の必須科目としての全学導入がある。

TI 大：テーマに関連して、インターネット時代に対応できる司書養成が非常に遅れている。特に司書講習の限られた時間で、インターネット環境を含めた多様な技能を修得する実習を行なうのは不可能だ。これら司書講習は委託職員も多く受講しており、それらの職員が現場で対応できるかも問題である。

（業務委託と図書館職員）

KR 大：当館では閲覧サービスについては委託、情報構築、管理については専任職員と別れている。専任職員は専門知識もありプライドが高く、一方委託職員も学生サービスに熱心である。館長には両者から苦情が寄せられ、気風、文化の違いがあるようで調整に苦慮する。

KG 大：自分が館長になると同時に前任者時代に決まったM社への閲覧委託が開始された。委託のプラス面としては開館時間の延長ができた点である。問題点として現場で気づいて助言したくても委託の法的な事を考慮すると助言できない点である。また、これまで職員が蓄積してきた経験を委託職員に研修できたとしてもその職員が次の年に図書館にいるかわからない。配属は委託会社によって決められてしまう。

KG 大：H.20 にアカデミックメディアセンターとして新館がオープンする。ハード的にはここに図書館と研究情報の集約し、研究・発信機能をそなえた施設にする構想である。ソフトとしては図書館情報と学内で集約した研究情報をどうリンクしていくかが課題であり、図書館職員にその役割を担ってもらいたい。

TK 大：学習図書館機能の充実を重点に行なっている。学生の図書館利用については1年生での指導が重要であるため授業の1コマを図書館の利用指導にあてている。学生がインターネット情報を丸写ししてレポートを書く問題も、そこを入口としてその情報の真偽の確認と、文献的裏付けへと学生の興味を発展させることは可能だと考えている。一方、研究機能、専門書やコレクションの購入といった問題について、特に人文系には専門図書は生命線だが経営を説得するためのアピール材料を見つけるのに苦慮している。

KZ 大：当館も派遣でアウトソーシングをしているが、委託会社の都合でメンバーが変更されてしまうため業務の継続性が維持できない。業者に勝手な配置換えをしないよう申入れをしている。また、漢籍など専門的知識が必要な業務のために職員研修しても、配置転換で他部署に人事異動になってしまう。10年は異動しないように要望しているが結果はわからない。

NJ 大：当館は司書採用があるが最初は他部署に配属され全体を経験することになっている。しかし欠員になっても最近では司書としての補充がない。大学は司書職での採用をしたくないようだ。ICUでの状況を知りたい。

司書職での採用はなくなった。事務への人事異動も始まりつつある。

NJ 大：学生が希望する資料が入りづらい。大学にふさわしくないという理由で却下させるものが多い。今年から雑誌について一般的なものを入れていくようにした。

以上